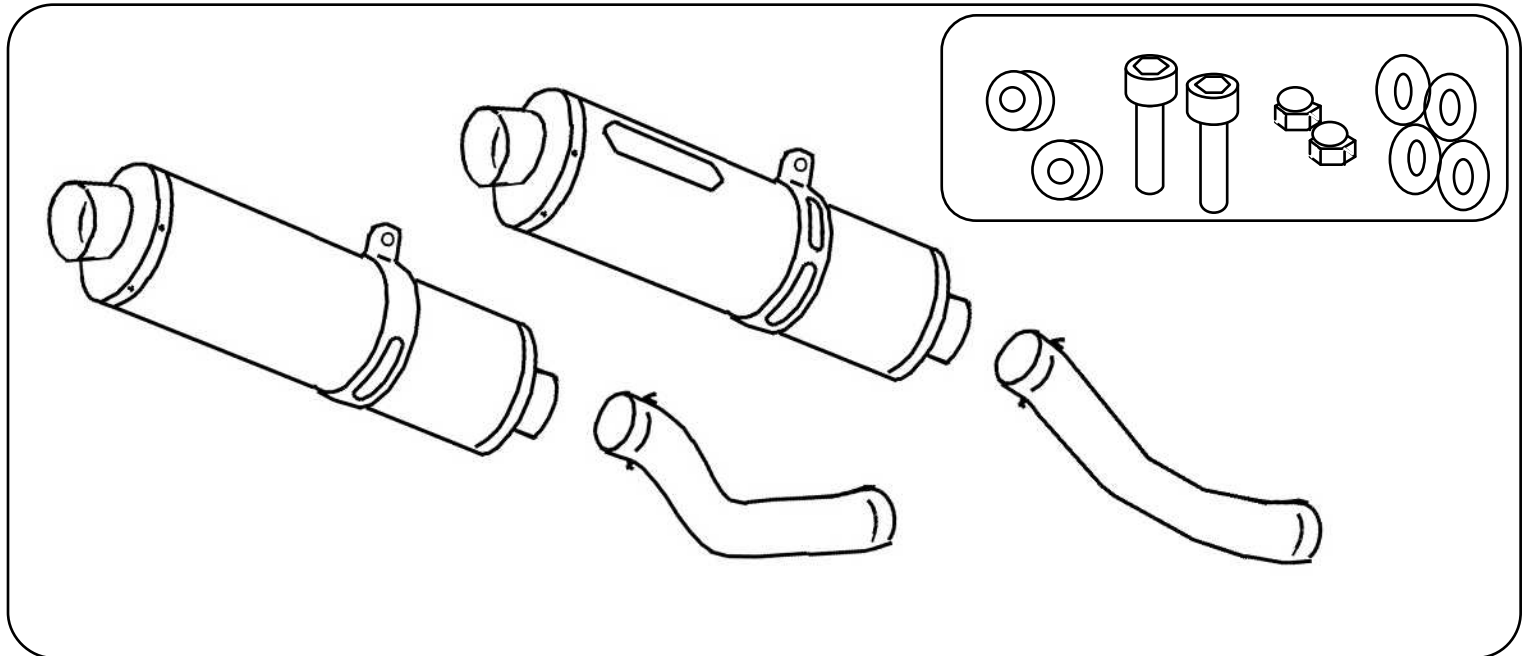


この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行って下さい。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。このマフラーは、アジア向けZX-14R/ABS(ZXT40E/F)用の商品です〔ZX-14R ABS(ZXT40F)は後日の適合追加予定です〕。その他の機種(車両型式・仕向け地)に関しては、取り付け確認及び車検対応の確認を行っておりませんのでご注意下さい。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。



純正マフラーの取り外し

純正マフラー(サイレンサー)を取り外します。(マフラー・その他純正パーツの脱着方法に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従ってください。)取り外しの際の純正ボルト・ナット類の一部はノジママフラーを取り付ける際も使用します。(純正タンデムヒートガードは使用しません)

センタースタンドストッパーの取り付け

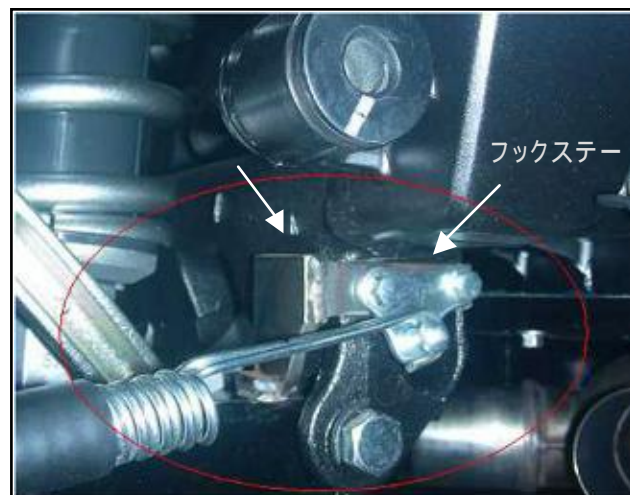
リターンスプリングを取り外した上で車体側のフックステーを取り外し、センタースタンドストッパーをフックステーではさむ形で共締めします。その後、元通りにスプリングを掛けてください。(右下図参照)

テールパイプの取付け

テールパイプを集合部に差込み純正クランプバンドで仮留めします。
差込部ガスケットは脱着毎の交換を推奨(純正品番11061-0448)

パーツリスト(梱包内容)

図番	パーツ名	数量
	サイレンサー L	1
	サイレンサー R	1
	テールパイプ L	1
	テールパイプ R	1
-	スプリング	4
	カラー	2
	ボルト M10	2
	袋ナット M10	2
	ワッシャー	4
	センタースタンドストッパー	1

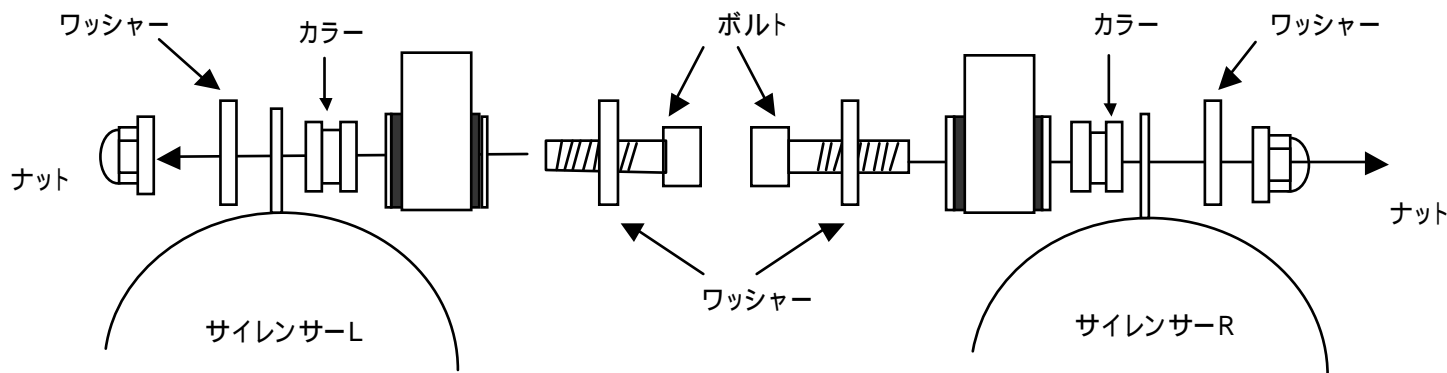


車体右側から見た図

サイレンサーの取付け

サイレンサーをテールパイプに差し込み、附属の カラー・ボルト・袋ナット・ワッシャーを用いてサイレンサーバンドで仮留めし、スプリングを掛けます。(下図参照) マフラー各部に無理な力が掛かっていないこと、車体各部との干渉がない事を確認し、必要があれば調整を行いながら仮止めたボルトナットを本締めします。締め込み具合により車体とのクリアランスが変化する場合がありますので、注意して下さい。最後に純正のクランプバンドで差込み部を本締めします。

サイドスタンドを動かしてみてテールパイプと干渉の無い事を必ずご確認下さい。



車体後方から見た図です。模式図の為、ボルト・ナット等の形状が実際とは異なります

サイレンサー差込み部には排気漏れ防止の為、シリコンボンド等を薄く塗布する事をお勧めします。スプリングはペンチ等を用いて作業すると折損の原因になりますので、必ずスプリングフック等をご使用下さい。

最終確認

以上で作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。

セッティングについて

このマフラーはすべてスタンダードの状態では性能を発揮するよう設計されておりますので、基本的にセッティングは不要です。(より突き詰めてセッティングを行う事でより良い結果を得られる場合はございます)

又、アクセルを戻した際に起こるアフターファイヤーが純正マフラーに比べて目立つ場合がありますが、これは車両の吸排気系が排ガス浄化の目的で積極的にマフラー内で二次燃焼を起こす仕組みになっている為であり、特に不具合等の心配はございません。(純正マフラーはサイレンサー内に壁が多い構造の為アフターファイヤーが目立ちませんが、純正マフラーでも同様に発生しています。)

注意！

走行中や走行後、マフラーは非常に高温になります。特にこのマフラーは排出ガス浄化の目的で、サイレンサー差込み部に触媒を使用しており、従来のマフラーに比べ更に高温になりますので、より一層の注意が必要です。火傷や衣類・靴等への熱害・損傷には十分お気をつけ下さい。又、駐車の際は他の人が触れない様にご配慮下さい。

グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブラせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発、排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)

グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。

走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気をつけ下さい。

シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。

本製品はJMC Aの認定を受け、排気ガス検査成績書を付属しております。車検時に必要となる大切な書類ですので無くさないように注意して管理してください。(再発行は有償となります)

転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メールにてお問合せ下さい。その他ご不明な点ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。